

大会長挨拶

長野県視覚・放送・情報教育研究会

会長 桂本 和弘

(長野県小学校長会長)

上田市は、精密機械や高度先端産業の集積地として、常に本県の産業・文化を牽引してきた地であります。加えて、当地は、六文銭を旗印に巧みな戦術で、戦国の乱世を駆け抜けた真田一族の地としても有名であります。この上田の地で、4年ぶりに参集して、74年の歴史ある本研究大会 令和6年度関東甲信越放送・視聴覚教育研究大会を開催できますことは、大変光栄であり、感謝申し上げますと共に心から歓迎を申し上げます。



本日はご多用の中、長野県教育委員会教育長代理 一色保典様、上田市長 土屋陽一様 東信教育事務所長 山崎唯史様、上小市町村教育委員会連絡協議会会長 山口千春様をはじめ多数のご来賓の皆様のご臨席を賜り、ご光彩を添えていただきましたことに、心より御礼申し上げます。ありがとうございます。

午前は、大会主題「自ら考え、自ら学び、未来を切り拓く子どもの育成～確かな学びと豊かな心を育む教育メディアの活用～」に基づき取組んで来られた、上田市内10校園の研究授業と関東甲信越各地の先生方の実践レポートを基に、充実した協議がもてましたことに感謝申し上げます。長野県では、本日のように、様々な大会で授業を通して、子どもの学びの事実から、参観者が学び合う風土があります。それぞれの授業会場では、ICT機器を積極的に活用することで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践を通し、すべての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適化な学びの実現に向けた一人一台端末の有効活用について、提案性のある授業を数多くみることができました。また、分科会においても、発表レポートを基に、教育メディアの効果的な活用とICTの果たす役割について、活発な議論が展開されておりました。

さて、令和3年1月の中央教育審議会で示された『令和の日本型教育』の構築を目指して（答申）から3年が経過した今、文部科学省の令和7年度概算要求では、GIGAスクール構想に係る事業について多くの予算要求、要望が出されております。そこには、GIGAスクール構想の下、1人1台端末の更新やネットワークの高速化は各自治体において進められているが、その活用状況については自治体間で格差が生じつつあること。今後、全ての学校においてICTを日常的に活用し、ICT環境を基盤として、個別最適化な学びと協働的な学びの一体的な充実を進めることや新たな技術にも対応した情報モラルを含む情報活用能力を育成することがこれからの課題であるとしています。これらを踏まえ、GIGAスクールにおける学びの充実に向けた予算要求が組まれています。

加えて、ICTの活用頻度が上がるにつれ、子どもの学びの孤立化や孤独化、発達段階を考慮した適切な使い方等を指摘する声も出てきています。また、日本の子どもたちは、デジタルを学びに使わず、遊びに使う傾向が高いことから、ICTを学びの道具にし、賢い使い方を教える指導の必要性も指摘されています。今後、デジタル教育を推進するにあたり、学び合いや実物や本物に接する等アナログな指導の良さを継承しつつ、デジタルな教材・教具の特性を活かした最適な使い方が一層求められることでしょう。こうした情勢の中、ますます本研究大会の果たす役割には、大きな期待が寄せられることと思われまます。

本日は、このあと、EXILE てつや氏をお招きして、「映像で伝えるダンス教育の表現」と題して特別講義いただきます。てつや氏を含めた3人での対談、地元中学生のダンスパフォーマンスの披露もあります。映像教材の効果的な活用について多くの学ぶべきことをご示唆いただけたと思います。

結びに、本大会開催にあたり、ご後援を賜りました、文部科学省および関東甲信越7県3市教育委員会、本大会の開催にあたり周到な準備をされ、整えて下さった公開授業会場の認定こども園・小学校・中学校・高等学校の皆様、指導者、助言者、授業者、発表者、そして、ご尽力いただきました役員並びに関係の皆様にご心から御礼申し上げます、あいさつと致します。